

## Turning point

- ▶ 1990年  
アルバイト生活を経て  
旅行代理店に就職
- ▶ 1995年  
小さい頃からの夢だった看護の仕事が諦めきれず看護助手に転職

- ▶ 1998年  
准看護師の資格を取得するために  
山形の看護学校に入学

- ▶ 2001年  
正看護師の資格を取得するために  
仙台の看護学校の入学/結婚



- ▶ 2003年  
看護学校を卒業し念願の  
正看護師として医療の現場に

- ▶ 2004年  
男児出生



- ▶ 2005年  
離婚し、地元の帯広へ



- ▶ 2008年  
子育て支援ハウスChipS開業



子育て支援ハウス ChipS (ちっぷす)  
 □ 自由が丘店 / 帯広市自由が丘6丁目1-13  
 電話 / 0155-41-6272  
 □ 音更店 / 音更町木野大通東2丁目2-1  
 美容室ラディッシュ2F  
 電話 / 0155-31-2313  
 □ http://www.chipsweb.net/

と切実に願うようになりました。  
 ちょうどその頃、全国的には子供が病  
 気中の時に保育サポートするシステムが  
 あるのに、地方都市では機能していない、  
 あるいは充実していないという現実を知

平成20年3月までは、市内の医院に  
 希望にひたりでした」。



市内のタクシー会社による「子育てタク  
 「まずはやってみよう」と行動の幅を広げ、  
 ズを察知しながらの実践を心掛けています。  
 験や「あつたらいいな」という周囲のニ  
 期一會」を意識するようになり「ほ  
 から、私も「所懸命にその人と接したい」。

※子育てタクシー/妊婦や乳幼児を伴うての外  
 出をサポートするほか、子供(0~15歳)だけの  
 利用も責任を持って送迎するタクシーサービス。

子育て中の「困った!」を  
 資格を活かしてサポートしたい  
 今年5歳になる「児の母でもある佐伯  
 さんは、出産後1年程で離婚を経験。看  
 護師として働きながら一人で子育てをし  
 ていく中で、夫の壁に衝突します。  
 その一つが、風邪や発熱など病気の予  
 供を預かってくれる施設がないこと。「例  
 えば、子供がインフルエンザにかかっても  
 働く母親は仕事を休めず、解熱剤を飲  
 ませて保育施設に子供を預けるんです。  
 しかし感染症の病気が予から、ほかの子  
 供にうつってしまうし、解熱剤の乱  
 用も危険です」。そんな現状を目の当た  
 りにし、また、自身も託児所になかなか  
 馴染めず、中耳炎などで病院通いの息  
 子の面倒を見ながら「病気の子供を  
 預かってくれるところがあればいいに」

ります。更に調べていくうちに、病児保  
 育には看護師の免許が必要で、資格があ  
 れば個人でも設立できることもわかりま  
 した。「自分と同じように困っている人は  
 多いはず。だったら私がその人たちの役  
 に立ちたい」と念発起します。  
 働きながら準備を進め  
 平成20年4月開業へ  
 病児保育のことを知ったのは平成19  
 年5月のこと。約2ヶ月かけて病児保育  
 の現状を調べ、「自分がやる」と決断。  
 8月には、起業をサポートする勉強会に  
 も通い始めました。それと同時に託児  
 所に適した物件探しも開始し、10月に  
 は自宅を兼ねた建物を購入するという  
 スピードで準備が進んでいきます。病児  
 保育の他に一時保育の開設も並行。「玄  
 間も階段も二つあるから、病気の子供  
 と健康な子供が一切接触せずに過ごせ  
 ます。窓が大きく室内も明るくて、私の  
 希望にぴったりでした」。

勤務しながら、開設にあたっての説明会  
 や採用するスタッフの面接、施設内の設  
 備充実などの準備に奔走。「説明会で  
 はニーズがあることを確信できましたし、  
 保育士などの資格を活かして働きたい  
 という子育て中のママたちとの出逢いも  
 ありました」。  
 そして、同年4月8日、13名(現在  
 は33名)のスタッフと共に、「Chips」  
 がスタート。Child(子供)とParent  
 (親、Support(支える)を組み  
 合わせた造語ですが、Chipには「か  
 けら」という意味もあります。「私にでき  
 ることは小さなかけらの一つ。そのかけら  
 を使用することで利用者の生活が向上し、

子供たちも親もかけがないの人生を送  
 って欲しい」という願いが込められています。  
 一期一会を大切にしながら  
 子供と子育て中の親を支えたい  
 帯広で生まれ、芽室で育った佐伯さん  
 の子供の頃の夢は看護師になること。し  
 かし家庭の事情で進学できず、アルバイト  
 生活を経験した後に旅行代理店に勤  
 務します。その後、看護師になる夢を諦  
 めきれず、看護助手として働きながら受  
 験勉強を始め、仕事と学業を両立させ  
 准看護師と看護師の資格を取得しました。  
 旅行を楽しむ人や入院生活を送る患者  
 さんとの仕事を通じたふれあいの中で「  
 期一會」を意識するようになり「ほ  
 んの瞬間でもその人の人生に関わるのだ  
 から、私も「所懸命にその人と接したい」。

力強い応援団長のような存在です。  
 シーの実現にも関与。今年4月には、  
 美容室とタイアップした音更店(美容室  
 利用者の託児の他、一般の一時保育にも  
 対応)の開設のほか、障がい児保育の受  
 け入れも本格化しました。また、「子育  
 て中のママを応援したい」と託児つきカル  
 チャー教室の展開など、様々なサービ  
 スにチャレンジしています。「どんな希望も、  
 利用者との話し合いで実現に近づきたい。  
 まずは気軽に相談ください」と話す佐  
 伯さんは、子供と子育て中のパパ・ママの



私のターニング・ポイント

病児保育のある  
託児所編

子育て支援ハウスChipS  
 株式会社ChipS さおり  
 代表取締役 佐伯紗織さん(38歳)

自分の経験と資格を活かして  
 頑張っている子育て中の  
 パパ&ママの味方に

子育て支援ハウス ChipS (ちっぷす)

U・Iターンや転職など、目標を見つけて新たな一歩を踏み出すための  
 “転機”にスポットを当てる「私のターニングポイント」。  
 仕事と子育てを両立させる中で、  
 子供が病気の時でも預かってくれる託児所の必要性を実感し、  
 「私と同じように困っている人の役に立ちたい」と自ら託児所を開業した  
 ママの奮闘を紹介します。

